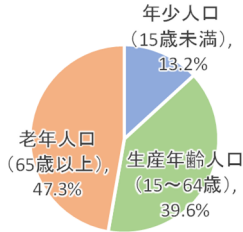


新市 (しんいち)

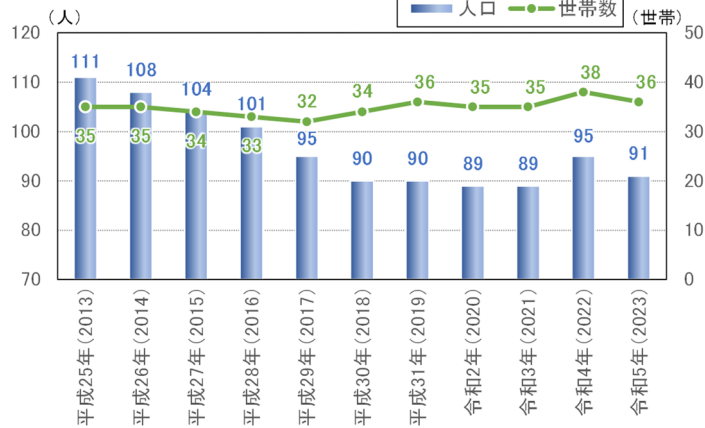
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	91人
世帯数	36世帯
高齢化率	47.3%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の東側は山が迫り、西側から北側は田畑が開ける。南側を岸田川が北西に流れる。

地名由来 対岸の古市村よりあとに新しく月の定期市が開かれたことによると思われる。

歴史等 北側の七釜との境の尾根に戦国末期の高巻城(七釜城)跡があり、田公氏が居城したといわれ、館跡の伝承もある。弘治3年(1557)の『但馬国にしかた日記』から、中世は杉谷村と言い、古市と一村であったことがわかる。また、永禄年間(1558~1569)の相応峰寺過去帳にも「杉谷の前」とあり、杉谷の前の集落、すなわち新市を指すとされる。「新市」というのは、近世以降であるが、高野山西明院にある中村備後守(新市の住人)の文禄2年(1593)の位牌には「杉谷村」とあり、当時はまだ杉谷村で、翌年頃から行われた太閤検地で新市村が成立したと見られる。洞ヶ谷には修験道の史跡があり、山岳信仰と深く関わりのある仏像が祀られている。

近世の新市村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保12年(1727)幕府領、文化3年(1806)からは豊岡藩領となった。家数は、宝暦10年(1760)31。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は135石余。

明治22年(1889)大庭村の大字となり、昭和29年(1954)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数40、人口は男105・女196。

これまで把握している文化財

文化財の件数 21件 (うち指定等文化財 1件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等		
有形文化財	建造物	建築物	0	5		
		石造物	0			
		工作物・その他の構造物	0			
	美術工芸品	彫刻	2			
		絵画	0			
		工芸品	3			
		書画・典籍	0			
無形文化財	その他の無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	0			
		音楽	0			
		演劇	0			
		工芸技術	0			
		その他の無形文化財	0			
		信仰の場	1			
		祭具	0			
民俗文化財	有形の民俗文化財	民具	0	2		
		その他の有形の民俗文化財	0			
		年中行事・民俗芸能	1			
	無形の民俗文化財	民俗技術	0			
		食文化	0			
		民間説話・俗信	0			
		その他の無形の民俗文化財	0			
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	0	13		
		古墳・その他の墓	10			
		城館跡・寺社跡	2			
		街道・古道等	0			
		戦争遺跡	0			
		その他の遺跡	1			
		山岳・高原・丘陵	0			
	名勝地	海岸・海浜・島嶼	0		0	
		河川・滝・溪谷・湖沼	0			
		公園・庭園	0			
	動物・植物・地質鉱物	その他の名勝地	動物		0	1
			植物		0	
			地質鉱物		1	
	文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	0		0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0			



新市の廻国供養塔



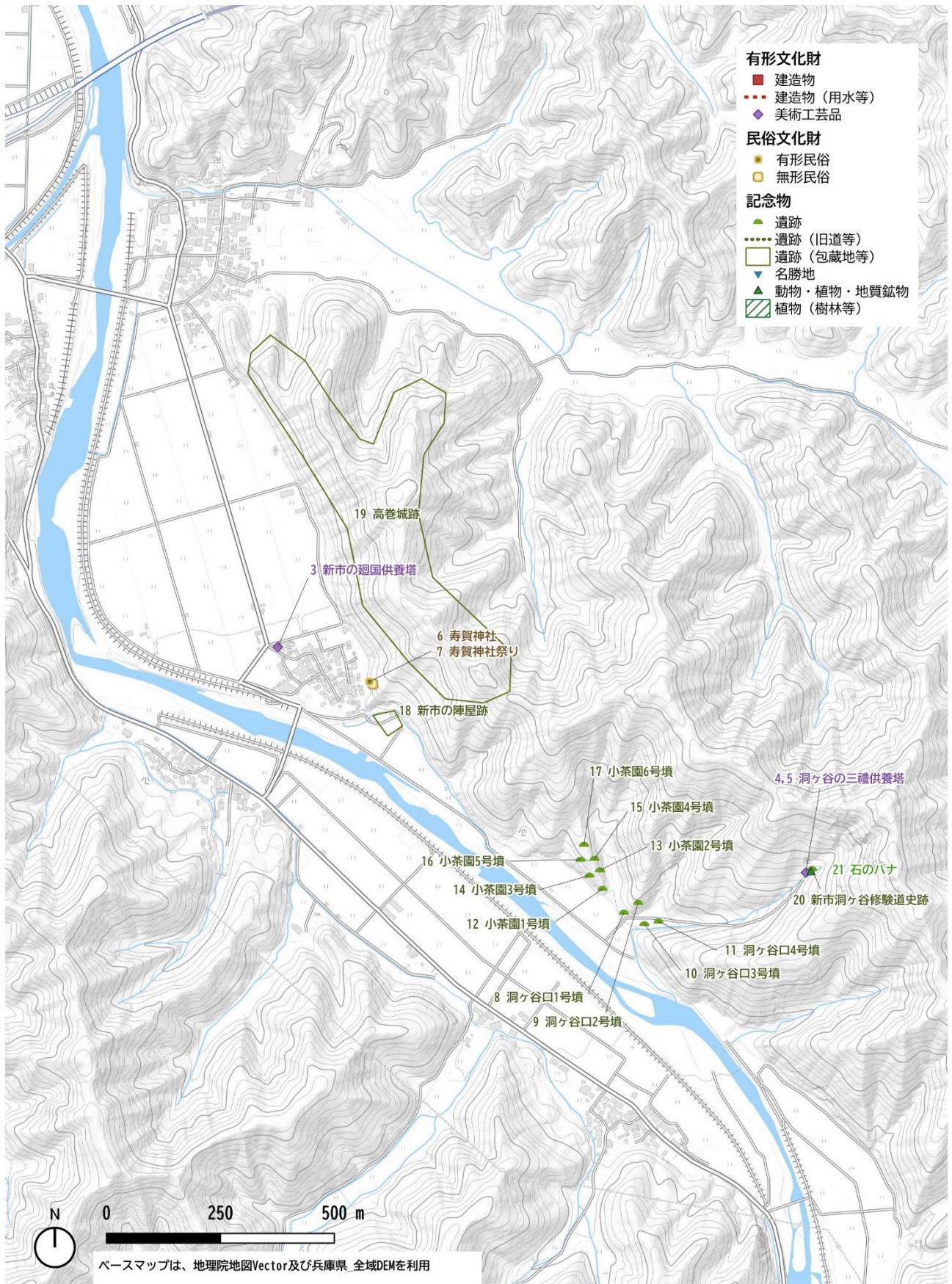
新市洞ヶ谷修験道史跡



高巻城跡

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-09 新市

文化財の一覧

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	1	洞ヶ谷の木造不動明王	霊場洞ヶ谷の権現洞内に祀られている。江戸時代初期の貞享年間（1684～1688）頃の製作と思われる木造の不動明王像。山岳信仰との関わりをうかがわせる像である。
	2	洞ヶ谷の蔵王権現像	霊場洞ヶ谷の権現洞内に祀られている。山岳信仰との関わりをうかがわせる像である。
工芸品	3	新市の廻国供養塔 （1725年建立）	角礫凝灰岩の自然石型。高さ157cm。享保10年（1725）8月建立。主碑銘は「回国供養塚」。新市の山根家に六部さんが泊まっており、病気で亡くなったためこの塔が建てられたという話が伝わる。現在は場所を少し移動している。
	4	洞ヶ谷の三禮供養塔 （1814年建立-1）	洞ヶ谷のこもり堂の右手を少し登った場所に、田井の慈斉寺の末庵といわれる「洞谷庵跡」があり、2基の石碑が立つ。江戸時代末の文政11年（1814）6月に、修験僧独国和尚が建立した三禮供養塔である。碑文はそれぞれ「五経一字一行三禮塔」、「公尊三千仏名一仏三禮塔独国識」である。
	5	洞ヶ谷の三禮供養塔 （1814年建立-2）	

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	6	寿賀神社	祭神は素戔鳴尊、保食神、品陀別命、思兼命。創立年月は不明。明治初年（1868）まで三寶荒神又は牛頭天王と称した。明治6年（1873）10月に村社に列せられる。同34年（1901）8月16日に社殿が焼失し、その後再建して、同42年（1909）に稲荷、八幡、若宮の3神社を合祀した。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	7	寿賀神社祭り	毎年9月28日に開催される。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
古墳・その他の墓	8	洞ヶ谷口1号墳	古墳時代の古墳。横穴式石室（5×2m）。
	9	洞ヶ谷口2号墳	古墳時代の古墳。全壊。
	10	洞ヶ谷口3号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。横穴式石室。
	11	洞ヶ谷口4号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。横穴式石室。
	12	小茶園1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	13	小茶園2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	14	小茶園3号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m、横穴式石室。
	15	小茶園4号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m、横穴式石室（4×2m）。
	16	小茶園5号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6.5m、横穴式石室（2.6×2m）。
	17	小茶園6号墳	古墳時代の古墳。円墳、径5m、横穴式石室（1.7×2.7m）。
城館跡・寺社跡	18	新市の陣屋跡	方形の平坦面がある。
	19	高巻城跡	中世の城館跡。堀切・郭等が顕著に残る。二方郡の有力国人で、代々但馬守護山名氏の直臣として徴用されていた田公氏を城主とする。縄張りから、南北朝期から室町期に造られた城を戦国期に大改修したことがうかがえる。拠点城郭であり、『吉川家文書』にいう天正7年（1579）段階の「垣屋豊統の要害」の一つと思われる。

分類	番号	名称	概要
その他の遺跡	20	新市洞ヶ谷修験道史跡	<p>新市洞ヶ谷には、江戸時代初期に造られた不動明王像を始め、山岳信仰と深く関わりのある仏像が祀られている。また、崖の中腹にある洞穴内には、鳥取県三徳山の修験道史跡（国指定）を思わせる堂宇があり、浜坂地域でも数少ない仏教（修験道）史跡の一つである。洞ヶ谷修験道に関する古文書は新町地区の火災により焼失しており、詳細を知ることができないが、慈覚大師の頃に開山した歴史の長い修験道の霊場の一つであったと伝えられている。</p> <p style="text-align: right;">町指定文化財</p>

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
地質鉱物	21	石のハナ	<p>霊場洞ヶ谷の洞に見られる白い天然鉱物。薬に使われていたとされ、胃薬や腹薬などの飲み薬、傷薬など、あらゆる病気に効くと伝わる。春から夏頃に岩の表面に析出していた潮解性をもつ鉱物の可能性があるとされている。</p>